



ひがしにほん

だいしんさい

# 東日本大震災から10年

## 地震と津波で壊れた水道の今



ひがしにほん 大震災の漏洩修理の様子

2011年の3月11日、東日本大震災が発生しました。1000年に一度とも言われる地震・津波が起きてから今年で10年がたちます。10年前、地震、津波、停電などによると、最も言われる地元・津波が度とともに、多くが起きた年に、水道管が壊れた19都道県で約257万戸（家、建物の数）が断水しました。これは日本で9番目に人口が多い福岡県のすべての家で水が使えなくなつたのと同じくらいの被害の数です。これほど大きな被害がなぜ起きたのでしょうか。そしてどうやって直し、今はどうなつてているのでしょうか。

東日本大震災では地震の揺れで水道管が壊れると地上に水がふき出します。ふき出した場所の水道管を直していきますが、地上からは見つけられない壊れた所もあります。水道管を

直したり、壊れた所を見つけるのは水道のプロにしかできません。東日本大震災では、たくさんの場所で同時に水道管が壊れたので、直すのに時間がかかりました。

地震では、水道管だけでなく水道水を作る浄水場や配水池は、建物が大きかつたり、大切な機械が動いているため、直すのには時間がかかることが多いです。

そして海から襲った津波もありました。浄水場や配水池は、建物が大きかつたり、大切な機械が動かなければなりません。津波ではたくさんの家が壊れたので、家と水道管をつなぐ部分も使えなくなりました。

原子力発電所の事故も断水の原因になりました。電気が使えなくなつたため、浄水場で水が作れなくなつたり、水を送るポンプが使えなくなりました。原子力発電所の事故も断水の原因になりました。

このように、東日本大震災では広い地域でいつせいに水道が使えなくなつたので、全国の水道のプロが力を合わせました。全国の水道局から給水車が駆けつけ、飲み水を届けたり、一時も早く水道が使えるようになりました。材料も足りないままでした。材料も足りなければなりません。年に必要な材料を作る全員はのべ約4万人、応急復旧活動に携わった作業員は約6300人になりました。

◇もつと強い水道に

まちもありました。電所の事故のすぐ後には電所の事務所のすぐ後には放射性物質が川や湖に入り、水道水を飲むことを控えるようにお願いしました。

2011年の3月11日、東日本大震災が発生しました。1000年に一度とも言われる地震・津波が起きてから今年で10年がたちます。10年前、地震が起きたときに、水道管が壊れた19都道県で約257万戸（家、建物の数）が断水しました。これは日本で9番目に人口が多い福岡県のすべての家で水が使えなくなつたのと同じくらいの被害の数です。これほど大きな被害がなぜ起きたのでしょうか。そしてどうやって直し、今はどうなつてているのでしょうか。

東日本大震災では地震の揺れで水道管が壊れると地上に水がふき出します。ふき出した場所の水道管を直していきますが、地上からは見つけられない壊れた所もあります。水道管を

直したり、壊れた所を見つけるのは水道のプロにしかできません。東日本大震災では、たくさんの場所で同時に水道管が壊れたので、直すのに時間がかかりました。

地震では、水道管だけでなく水道水を作る浄水場や配水池は、建物が大きかつたり、大切な機械が動かなければなりません。津波ではたくさんの家が壊れたので、家と水道管をつなぐ部分も使えなくなりました。

原子力発電所の事故も断水の原因になりました。電気が使えなくなつたため、浄水場で水が作れなくなつたり、水を送るポンプが使えなくなりました。原子力発電所の事故も断水の原因になりました。

このように、東日本大震災では広い地域でいつせいに水道が使えなくなつたので、全国の水道のプロが力を合わせました。全国の水道局から給水車が駆けつけ、飲み水を届けたり、一時も早く水道が使えるようになりました。材料も足りないままでした。材料も足りなければなりません。年に必要な材料を作る全員はのべ約4万人、応急復旧活動に携わった作業員は約6300人になりました。

このように、東日本大震災では広い地域でいつせいに水道が使えなくなつたので、全国の水道のプロが力を合わせました。全国の水道局から給水車が駆けつけ、飲み水を届けたり、一時も早く水道が使えるようになりました。材料も足りないままでした。材料も足りなければなりません。年に必要な材料を作る全員はのべ約4万人、応急復旧活動に携わった作業員は約6300人になりました。

このように、東日本大震災では広い地域でいつせいに水道が使えなくなつたので、全国の水道のプロが力を合わせました。全国の水道局から給水車が駆けつけ、飲み水を届けたり、一時も早く水道が使えるようになりました。材料も足りないままでした。材料も足りなければなりません。年に必要な材料を作る全員はのべ約4万人、応急復旧活動に携わった作業員は約6300人になりました。

このように、東日本大震災では広い地域でいつせいに水道が使えなくなつたので、全国の水道のプロが力を合わせました。全国の水道局から給水車が駆けつけ、飲み水を届けたり、一時も早く水道が使えるようになりました。材料も足りないままでした。材料も足りなければなりません。年に必要な材料を作る全員はのべ約4万人、応急復旧活動に携わった作業員は約6300人になりました。

このように、東日本大震災では広い地域でいつせいに水道が使えなくなつたので、全国の水道のプロが力を合わせました。全国の水道局から給水車が駆けつけ、飲み水を届けたり、一時も早く水道が使えるようになりました。材料も足りないままでした。材料も足りなければなりません。年に必要な材料を作る全員はのべ約4万人、応急復旧活動に携わった作業員は約6300人になりました。

参考:厚生労働省「東日本大震災水道施設被害状況調査最終報告書」(平成25年3月)

### なるほどポイント

まちはこべる浄水場

水道水の原水としている地下水に海水が入り、水道水が作れなくなつたまちで活躍した機械の一つが「可搬式膜ろ過装置」でした。「可搬式」は「持ち運べる」という意味です。海水を膜に通してろ過し、淡水を作る浄水機能を持ち運べるサイズにまで小型化したもので、「持ち運べる浄水場」と言えるでしょう。震災が起きたあと、装置を作っている企業が急いで被災地に運び、応急的に海の水から飲用できる水を作り、住民らに配って支援しました。



しゃしんできょうすいきこうしこう 写真提供:水道機工